

《NEWS》

■第18回遺跡発表会を開催

平成26年7月26日(土)に佐倉市民音楽ホールで開催した遺跡発表会は、200名近い来場者にお越しいただきました。今回は國學院大學学術資料センター准教授の内川隆志先生(写真)に「鏡と信仰-和鏡

の成立と展開一」という題名で豊富 な資料を用いた講演を頂戴し、セ ンターの調査事例として、名木不光 寺遺跡、郷辺田遺跡・中ノ台遺跡、 飯塚台遺跡の発表をしました。



※遺跡発表会の当日資料は、当センターホームページまたはス マートフォンサイトよりダウンロードしていただけます。

■職場体験・体験学習を実施

近年、小学校・中学校の児童・生徒を迎え入れ、体験学習・職場体験を実施しています。今年度も10月~11月にかけて、佐倉市内の5つの中学校(根郷・臼井西・南部・佐倉東・佐倉)と根郷小学校から来た子供たちに、当センターの仕事を体験していただきました。体験の中味は、実施した時期によって学校ごとに異なりますが、当センターの仕事と埋蔵文化財に触れたことを、これから進みだす社会への一歩を支えるものにしていただけたようです。



《ご案内》

■平成26年度企画展 「鏡の向こう - 神を 視る 人を見る - 」開催中

当センター考古資料展示室にて、平成27年6月26日(金)まで企画展を開催しております。今回の企画展では、現在でも日常生活にて使われている鏡

をテーマにした展示を行っています。印旛郡内の発掘調査で出土したものや伝世した鏡を展示し、鏡にまつわるエピソードもあれこれ紹介しております。一部展示替えも予定しています。時代を経ることによって、次第に変化していく鏡に対する人の想いを見てください。



《平成26年度 調査を行った遺跡》

〈成 田 市〉 寺台城跡 (平安時代、中世) 大竹遺跡群Ⅲ

(縄文時代、古墳時代、平安時代、中世) 下福田遺跡群 「縄文時代、近世) 猿山与左工門遺跡(縄文時代) 宗吾3丁目遺跡(奈良時代) 野口皿遺跡(旧石器時代、縄文時代)

(佐 倉 市) 佐倉城跡 (歴博第11次) (近世、近代) 神門房下遺跡D地点 (縄文時代、奈良·平安時代) 天辺内山1号(第1古墳時代)

遠部台遺跡 (第7次)(奈良·平安時代、中世) 岩名町前遺跡 (第3次)(古墳時代)

《四街道市》 鶴口遺跡 (第2地点)(古墳時代) 木戸場遺跡 (第3地点)(縄文時代)

〈栄 町〉 五丹歩遺跡⑥地区 (古墳時代)

《平成26年度 整理作業をした主な遺跡》

《成 田 市》 名木不光寺遺跡(古墳時代、中世・近世) 村田城跡(中世) 御館台 I 遺跡(縄文時代、奈良・平安時代)

> 大竹遺跡群Ⅲ (縄文時代、古墳時代、平安時代、中世) 宗吾3丁目遺跡(奈良時代)

〈佐 倉 市〉 佐倉城跡 (歴博第 10·11 次)

(縄文時代、弥生時代、近世、近代) 岩名町前遺跡 (第3次)(古墳時代) 神門房下遺跡 D地点 (縄文時代、奈良·平安時代) 井野長割遺跡 (縄文時代) 遠部台遺跡 (第7次)(奈良·平安時代、中世)

六崎外出遺跡(中世) 他

〈印西市〉 馬場遺跡第8地点(縄文時代) 他

(栄 町) 岩屋古墳 (古墳時代) 宮ノ後遺跡 (古墳時代、奈良・平安時代)

※発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合 もありますので、かならず、事前にご連絡ください。

《おしらせ》

最新の情報はホームページとスマートフォン版サイトにて!!

ホームページとスマートフォン版サイトにて、当センター

の最新情報をお伝えしていきます。下記 URL もしくは QR コードより閲覧してください。

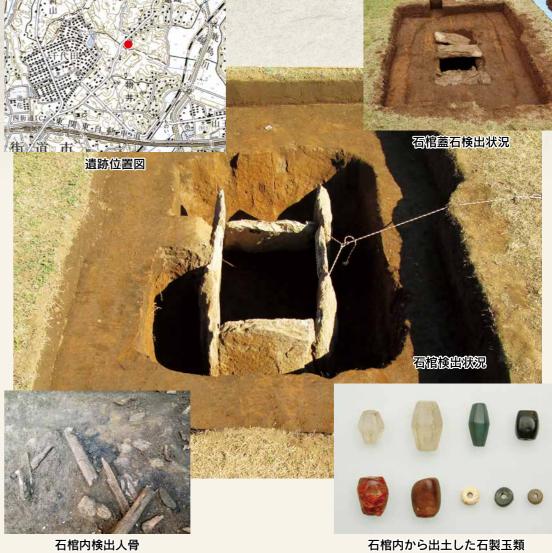
PC サイト http://www.inba.or.jp スマホサイト http://www.inba.or.jp/sp







四街道市鹤口遗跡 (第2地点)



鶴口遺跡 (第2地点) は JR 総武本線物井駅より北に約 1.3km、印旛沼に注ぐ鹿島川の左岸、標高約 31 mの台地上に立地しています。本遺跡は平成 20 年度に当センターで発掘調査を実施しており、出土した遺物の年代からおよそ7世紀中葉と想定される約 21 mを測る方墳の周溝が発見されています。今回はそのすぐ西隣を発掘調査しました。

発掘調査は、蓋石の1枚が崩落したことで露呈した箱式石棺を中心に実施しました。発見された箱式石棺は、長さ約2m、幅約1.1mを測り、4枚の蓋石、片側3枚ずつの側壁、1枚ずつの小口、計12枚の絹雲母片岩の板石で構成されています。各板石の間には僅かな隙間があり、内側から白色の粘土が充填されていました。床面の広い範囲で木質の残る炭化物が検出され、その直上に人骨が置かれていた状況から遺体を埋葬する際に床に敷かれていたものと思われます。石棺内部には北側の小口に寄せ集めたように人骨が検出されました。遺存状態はあまり良いとは言えませんが、見つかった歯の本数から最低でも2体が埋葬されたことがわかりました。また歯の付近からは水晶や琥珀製等の玉類がまとまって発見され、埋葬された人物が身に着けていた装飾品と思われます。残念ながらその他の副葬品は一切出土しませんでしたが、石棺は蓋石によって閉じられていたことから後世に盗掘を受けた可能性は低いものと思われ、当初から玉類以外の副葬品を持たなかったか、あるいは追葬時に取り出したことが考えられます。

今回は主体部のみの調査であったため、古墳の形や時期については不明な点を残しますが、 今後の整理作業の中で検出した人骨の分析、周辺古墳群との比較検討、そして隣接する方墳 との関係について新たな発見があることでしょう。

佐倉市神門房下遺跡D地点

神門房下遺跡 D地点は、佐倉市立南部中学校内に位置しています。過去にA地点からC地点まで校内の施設整備に伴い発掘調査が行われ、A地点、B地点では縄文時代中期(約5,000年~約4,000年前)の住居跡が、C地点では中近世の遺構がみつかっています。今回調査を行ったD地点では、縄文時代中期の住居跡が7軒、奈良・平安時代の住居跡2軒がみつかりました。

A地点 グラウンド D地点 B地点

文目 文時代の住居跡は長方形のものがみつかって おり、内側が一段低く掘り込まれ、床は踏み 固められています。このような住居跡を有段式住 居跡と呼びます。有段式住居跡は炉がないものが多 いことから、日常生活を送る住まいとは別の使い方 が考えられます。

その他には土器を埋めて使った埋甕炉や、破片を壁に巡らせた土器片囲い炉をもつ住居跡がみつかっています。炉は、住居の中央部分に浅く掘っただけのものが多いのですが、D地点ではこのような土器を使った炉が4基もみつかりました。これはとてもめずらしいことです

A地点でみつかっている住居跡にも今回の調査結果と同様の特徴があり、また同じ時期であることから、中学校の校庭下にはおおきなムラの跡が眠っていることがわかりました。

□ マケットでは、柱跡周辺から遺 □ 物がみつかっています。カマドに近い柱跡の らは、須恵器の坏と鉄製の鋤先が、床に置かれた状態でみつかりました。また、出入口部に近い柱 穴を埋め戻したところから、伏せた小型の甕が出土しました。このことから、この住居を使わなくなってから、これらの遺物が置かれたことがわかります。 にはずの鉄製の鋤先、そして伏せて置かれた小型の甕、これらはこの住居に住んでいた人がこの地を 去るにあたって、暮らしていた住まい、またはその 住まいを支えていた柱そのものへの感謝の気持ちを

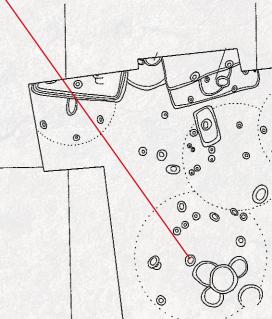
hannut 1.1.1.1.1.1.1.1.1.1



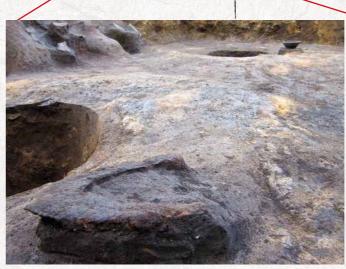




有段式住居跡



神門房下遺跡D地点全体図(1:200)



床に置かれた鋤先(手前)と須恵器坏(奥)



柱穴が埋められた後(白線部分)、伏せて置かれた小型の甕